

高桑華夷治さん（元知床博物館協議会会長）を偲んで

高桑華夷治さんが亡くなられて早いもので1年が過ぎてしまいました。高桑さんは知床博物館の前身である「しれとこ資料館」が開館した昭和45年に資料館運営委員長に就任され、知床博物館が開館した昭和53年からは博物館協議会会長として通算30年以上にわたって博物館の運営にご指導をいただきました。高桑さんは駅前の老舗旅館「斜里館」の経営の傍ら、消防団長、観光協会会長、選挙管理委員長など数多くの要職を務められましたが、若い頃から考古学への造詣が深く、昭和21年の斜里町郷土研究会の創設に関わられました。そして戦後本格的に始められた斜里町の遺跡発掘調査、河野広道博士による朱円環状土籬やウトロの遺跡発掘調査にも参加されて当町の先史時代の解明と文化財の保護・保存に大きく貢献されました。この当時発掘された資料は北海道指定文化財にも指定され博物館内に展示されていますが、高桑さんによる展示解説はわかりやすく、学者にはできない味わいのあるもので、聞く人に縄文時代の生活を彷彿とさせる見事なものでした。

『縄文と平成むすぶ蟻の道』これは高桑さんから10年ほど前にいただいた色紙です。博物館の応接室に飾られています。色紙の裏には「蟻とは博物館学芸員その他関係者のことである」と記されおり「古代に生活した人々と現代の私たちを結びつけるのは日々の地道な調査研究活動である。そのことを忘れないように。」との高桑さんから私たち後輩へのメッセージです。



高桑さんの揮毫の色紙

高桑さんは早くから自然保護にも高い見識を持っておられました。斜里町の観光協会会長を長く務められていましたが、よく口にされていたのは「知床の自然を守ってこそ斜里町の観光がある。自然は元金でその利息で観光が成り立っているのだから、元金を減らすようなことはしない。」という言葉でした。

知床の世界遺産登録は高桑さんのようなオピニオンリーダーが早くからいらしたからこそ実現したものと思います。昭和47年の「斜里町郷土研究」の創刊号には高桑さんが作られた『斜里町遺跡天然記念物観光資源所在地』という図が掲載されています。知床半島の地図に山岳や河川名が詳しく記載され、その中に町内の遺跡と自然地域の位置が55カ所も示されているものです。斜里の文化財・自然財産を示した最初の図であり最初のガイドマップともいえるものですが、高桑さんが早くから知床の価値を的確に把握していたことがこの図からもうかがえます。

現在中心市街地の再開発事業が進められており、駅前の風景も一変しつつあります。「駅前ホテル斜里館」の会議室ではかつて郷土研究会の会合が開かれ、斜里・羅臼・中標津等の郷土研究会による合同研修会もここを会場に開催されて

いました（私が高桑さんに初めてお会いしたのも32年前に中標津から始めて参加した合同研修会の会場でした。緊張して参加した新参者に、笑顔で気さくに声をかけていただいたことを思い出します）。斜里館は以前から斜里へ調査に訪れた研究者の定宿でもありましたが、この建物もとりにわされて新しい建物に生まれ変わります。天国の高桑さんも市街地の大きな変貌に驚かれていますことでしょう。

高桑華夷治さんの長年にわたるご功績を偲び、私たちにいただいたご指導に感謝申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。（中川 元）



第10回特別展「斜里町産業発達史」のオープン式で（昭和63年）
左側・高桑会長、右側日置副会長（いずれも当時）



郷土研究会合同研修の集いで挨拶する高桑会長（昭和52年、斜里館）



北海道博物館協会会長表彰（博物館功労）を受ける高桑華夷治さん（平成3年、苫小牧市で）

発行 斜里町立知床博物館協力会 2007.1.23

099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49

斜里町立知床博物館内

TEL:0152-23-1256 FAX:0152-23-1257